



〈県政150周年連携イベント 日タイ合同シンポジウム〉

# 自然災害における 保健・看護職の活動と今後の課題

本シンポジウムでは4名のシンポジストを招聘し、豪雨災害や東日本大震災など未曾有の災害時における県内の保健師の活動、ならびに愛知県立大学学術交流協定大学であり、水害被害が多いバンコクにあるナワミンタラティラート大学教員による災害看護教育の実際、愛知県立大学看護学部教員による防災活動について講演していただき、未曾有の被害が予想される南海トラフ地震等の災害に対する保健・看護職の今後の取り組みについてディスカッションを行います。

日時

令和4年 **9月25日(日)**

14:00～16:00 (13:30～会場、オンラインともに入室可)

シンポジスト

山本 真由美 氏 岡崎市福祉部 長寿課 保健師

近藤 菊久枝 氏 愛知県春日井保健所 小牧分室 保健師

ポンポル・コンサマン 氏 ナワミンタラティラート大学(タイ)看護学部 講師 看護師

清水 宣明 氏 愛知県立大学 看護学部 教授

開催方法

ハイブリッド開催

- ・現地開催 ウィンクあいち(名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩5分)
- ・オンライン開催 (Zoomウェビナー)

対象者

主として東海地方に居住されている方、  
愛知県内の高校生、保健・看護職、保育園・幼稚園関係者、  
東海3県の看護系大学教職員ならびに学生・大学院生

定員

現地開催は 60名 オンライン開催は 480名(各先着順)

**参加無料**

ハイブリッド開催

現地開催とオンライン(Zoom使用)の  
同時開催で行います

〈申込期間〉

令和4年 8月15日(月)

～9月19日(月・祝)

※定員になり次第、申込受付は終了します。

◎お申し込み方法

参加を希望される方は、下記URLか右の二次元バーコードよりお申し込みください。

<https://u-sys.yupia.net/aichi150th/>

お申し込み後、当日のご案内およびアクセス先(オンライン参加のみ)等をお送りします。



◎お申込みについてのお問い合わせ

Eメール:aichi150th@yupia.net (株)ユピア TEL:052-872-8101(平日10:00～16:00)

◎内容についてのお問い合わせ

愛知県立大学看護学部 〒463-8502 名古屋市守山区上志段味東谷  
TEL 052-778-7100 (ダイヤルイン)(平日9:00～17:00)

現在の愛知県が誕生してから、2022年で150周年を迎えます。



# 自然災害における保健・看護職の活動と今後の課題

政府の地震調査委員会は、2022年1月に今後40年以内にマグニチュード8～9級の南海トラフ地震が発生する確率は、90%程度と発表しています。この地震およびその後に発生する津波によって愛知県内の死者想定は最悪の場合6400人とされ、1959年の伊勢湾台風以上の甚大な被害が予想されています。

愛知県立大学看護学部では、県民の命を守るという使命を持ち、2015年度から学部教育として災害看護学を教授してきました。加えて2021年度からは学生が小グループで県内各地の医療機関、自治体の災害対策について学び、学内で視察結果を共有するという演習に取り組み、看護職として災害に対応できる人材の育成に努めています。

県政150周年というこの節目の年に、愛知県内の「保健・看護職」が取り組んできた過去の災害看護活動ならびに災害弱者を対象とした地域での防災の現状を共有したいと考えました。また看護学部の学術交流協定校であるタイ・バンコクのナワミンタラティラート大学は水害の多い地域に有り、ナワミンタラティラート大学における災害教育の実際も参考にしながら、今後に残された課題を検討し、未曾有の被害が予想される南海トラフ地震等の災害に対して県民の命を守る看護活動を実践できるよう、保健・看護職の取り組みを考えたいと思います。

## ① 「水害被災地における保健活動の経験」

■ 山本 真由美 氏 岡崎市福祉部 長寿課 保健師

2008年8月、岡崎市は伊賀川・乙川等9つの河川が氾濫し、2500棟の住宅が被害にあい、自衛隊に救助要請を出すなど、豪雨災害に見舞われました。この時の被災地の保健師としての活動経験を、他自治体、機関からの支援の受け入れにも触れながらお話しいたします。

## ② 「被災地に長期派遣された経験」

■ 近藤 菊久枝 氏 愛知県春日井保健所 小牧分室 保健師

2011年東日本大震災後に愛知県から宮城県子ども総合センターに長期派遣され、保健師として被災した子どもの心のケアにあたった経験について語っていただけます。また被災地の保健・看護職とともに働いた経験から、被災後に貴重な専門職のひとつである看護職として活動を続けるために必要な備えについて考えていることをお話しいたします。

## ③ 「災害看護：ニューノーマル下の教育管理」

■ ポンポル・コンサマン 氏 ナワミンタラティラート大学(タイ)看護学部 講師 看護師

愛知県立大学看護学部の協定校であるタイ・バンコクのナワミンタラティラート大学看護学部における災害看護教育の現状をお話しいたします。災害時における看護師の役割および看護師としての水害をはじめとするご本人自身の体験をもとに構築された教育内容は、南海トラフ地震とそれに引き続いて発生すると考えられる津波発生時の看護に活用できると考えます。

## ④ 「地域の災害弱者の実情に合った対策の作成法」

■ 清水 宣明 氏 愛知県立大学看護学部 微生物学、感染症制御学 教授

愛知県立大学“まもるよちいさな いのち”地域災害弱者対策研究所 所長

子どもの命を災害から守るための保育園との防災に関する協働をもとに、災害対策を地域に拡大する方法論および災害弱者の実情に合った対策作成法の実際をお話しいたします。また南海トラフ地震の被害に住民自らが備えるためにはどのような働きかけが必要かについて、名古屋市の活動例を挙げながらお話しいたします。